

【厚木南地区】令和4年度自治会長と市長とのまちづくりフリートーク実施結果【最終報告】

日 時:令和4年6月24日(金) 午後4時20分～午後5時20分
 会 場:厚木南地区市民センター
 参加者:地区の自治会長(12名)、公民館地区館長、
 市長、副市長、教育長、市長室長、地区市民センター所長

テーマ『交通死亡事故ゼロ』について

近年、全国の交通死亡事故件数は減少傾向にあるが、残念ながら交通事故で亡くなる悲しいニュースを度々目にすることもあり、厚木南地区でも、先日交通死亡事故が起きてしまった。また、神奈川県は、令和3年の交通死亡事故数が全国でワースト1位142人になってしまっている。
 全国の登下校時における交通事故に目を向けると、この5年間の全国の小学生の通学路での交通事故件数は500件を超えている。
 厚木市における交通事故件数は、市の取組、警察、学校、自治会などの交通関係団体や地域の方々の見守りなどにより、年々減少しているが、セーフコミュニティ認証都市として未来を担う子どもたちの事故を1件でも減少させることは、厚木市で生活する大人の役目でもあると認識している。
 この度、厚木南地区では、各自治会がそれぞれの立場で、また、大人の目線に立って通学路の安全点検を実施した上で、交通死亡事故ゼロにつながるための貴重な意見交換の場といたくテーマとして取り上げた。

自治会長からの意見	市長等からの回答
-----------	----------

意見1 路面のカラー舗装について

【旭町5丁目自治会長】
 ■厚木第二小学校の正門前道路は、タクシーの抜け道になっている。地域の方や教職員の方も注視して見守ってはいるものの、登下校時には多くの児童が一斉に校門へ出入りするため、危険な状態も度々あり、大事故へとつながることも危惧される。
 そこで、ドライバーに対する安全運転の意識付けとして、正門前の路面をカラー化することで、視覚を通じて事故の抑止力になるのではないかと考えている。

【市長】
 ■自治会長が安全点検をして作成した地図については、優先度をあげてどこから対応するかを協議する資料として活用させていただく。
 ■第二小学校の正門前の路面は、今年度カラー化を行う。
 さらに、正門前の南北の横断歩道付近も、ドライバーに対し視覚的な注意喚起を行うためカラー化を行い、交通安全対策の強化を図っていく。
 <<現況・今後の対応等>>
 ■路面のカラー舗装については、10月中に実施する。(道路維持課)
 <<中間報告以降の状況等>>
 ■路面のカラー舗装については、11月に実施した。

意見2 ヘルメットの着用と反射材への新たな助成について

【旭町3丁目自治会長】
 ■厚木第二小学校の児童の自転車ヘルメットの着用率は非常に高く、この要因として、学校や家庭での教育及び指導と過去に学区内で不幸な事故が起こったことが挙げられると思っている。
 市全体でも小学生の自転車ヘルメット着用率は高いようだが、夜間に学習塾やスポーツクラブ等へ通う際に、自転車を利用する機会が多い中学生・高校生のヘルメットの着用率は低いと感じる。ヘルメットは頭部を守るのに大きな効果があることから、学習塾等に対して、ヘルメットの着用の啓発についてお願いしてはどうか。
 また、今年度、厚木市ではヘルメット購入助成事業の対象者を、全年代に拡大していることから、この事業の一層の推進とともに、中学生・高校生や大人が、夜間に外出する際に、ドライバーが気づきやすくなる反射材等の助成事業も新たに実施してはどうか。

【市長】
 ■中学生・高校生へのヘルメット着用については、ポスターやチラシなどを通じて、学習塾等をお願いしていく。
 ■反射材を利用した交通安全グッズは、交通安全啓発キャンペーンのほか、市内高校での交通安全教室等で配布を行っている。
 今年度から、子ども高齢者交通事故防止事業として、子どもや高齢者への交通安全教室の実施とともに、反射材の利用促進や配布を予定している。
 幅広い世代に対し、反射材の配布を進め、利用促進を図り、夜間外出時の交通事故防止に努めていく。
 <<現況・今後の対応等>>
 ■学校や学習塾等を通じて中学生・高校生へのヘルメット着用の周知を図る。また、反射材の購入助成の予定はないが、交通安全教室等で配布し利用促進を行っていく。(交通安全課)
 <<中間報告以降の状況等>>
 ■ヘルメット着用のポスター及びチラシを作成し、1月初旬に学習塾を始め学校、公共施設など約160箇所に送付し、着用推進を図った。

意見3 交通安全教育(信号機のない横断歩道でのあいさつ)について

【旭町2丁目自治会長】
 ■JAF調査によると、昨年度、信号機のない横断歩道での車の一時停止率が最も高かったのは、長野県で85.2%である。
 これは、全国平均が30.6%からしてとても高い数字で、この要因として、幼児教育や小学校の時から、一時停止をしたドライバーへお礼の挨拶をするという運動をしているからだと言われている。
 本市においても、小学校の交通安全教育に取り入れたらどうか。

【市長】
 ■御提案いただいた一時停止をしたドライバーへのお礼の挨拶運動については、思いやりや譲り合いの精神から、非常に良い取組を紹介いただいた。
 今後、交通安全教室で取り入れるよう厚木警察署と調整するとともに、広報啓発活動を通じて、保護者などにも呼びかけていく。
 【教育長】
 ■小・中学校の交通安全指導にて、アイコンタクトは取り入れていきたい。信号機のない横断歩道では、アイコンタクトが取れても車が停車しない危険性もあるため、時間をかけて子どもたちに浸透させ、子どもたちがハンドルを握るようになったときにも、次の世代を守れるように取り入れていきたい。
 <<現況・今後の対応等>>
 ■非常に良い取組。各交通安全関係団体等の会議で周知し、子どもたちへの声掛け等を通じて浸透させていきたい。(交通安全課、教育指導課)
 <<中間報告以降の状況等>>
 ■通学時間帯に立哨を行っている交通安全母の会や交通安全指導員等へ適宜周知を行った。